

第2回松本市公民館運営審議会 会議録

日時 令和6年3月25日(月) 18時から20時

会場 松本市中央公民館3階 3-B視聴覚室

1 開会

2 委員長あいさつ

年度末のお忙しい中のご参加、ありがとうございます。

先日のまちづくりの集いは、これからの公民館を考える議論ができた。全体会の講師：牧野先生からは、自治などが問われる中、公民館の役割が土台で、そこでの議論が暮らしの根っこを作っている。そんなことを気づかせてくれた。今後、みんなで広く共有し、みんなで議論することが必要だ。

今日は、中央公民館から今年度の重点目標の自己評価などの報告をしてもらい、皆さんからご意見を出してもらおう。

3 議題

「令和5年度 生涯学習課・中央公民館事務事業報告」

生涯学習課長説明(教育委員会に提出した資料のうち、公民館関係を抜粋して説明)

以下、意見、質疑応答・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) コミュニティスクール事業について

○ 今年度国型を大野川に導入したが、どのように評価して、今後どのように展開するのか

→ これまでの松本版では、公民館長がコーディネーター。国型では、地域の人を社会教育法に基づく地域学校協働活動推進員(以下「推進員」という。)として学校内にコーディネーターを配置した。

地域の人なので、学校と地域をつないでくれ、スキーとかアルプホルンなど、地域の特性に合った事業を提案・調整などしてくれ、多彩な事業が展開できた。

先生の負担軽減にもつながった。これまで教頭がやっていた、地域との調整や予算などの事務を推進員が行った。

- 今後は？大野川以外にも展開するか？
 - 大野川以外にも展開したい。松本市の難しい点として、学校区と地区のエリアがずれているところが多い。1学校区に多数の地区があったり、1地区に複数校があったりする。大野川では、とても良い成果が得られたが、松本特有の学校区-地区のズレなどの点を踏まえ、今後の展開について考えたい。

- 松本市は、確かに、学校区と地区が合っていないので、難しいと思う。松本版では、コーディネーターの公民館長が学校とのつながりが強くなり、住民の方が、つなぎ役をしているところもある。もっと学校と公民館との信頼関係を作ってもらいたい。

- 国型であれ、松本版であれ、コーディネーターの役割は重要だと思う。学校や地域で何が求められているか、も含め整理が必要だ。

- 大野川の推進員はどんな人？
 - 地域の移住受入れに関わっている。学校教育などの経験もある方。

- 推進員が、学校にいてくれることで、いい面が見えてくれば導入してもよいと思う。大野川ではどうなのか、聞かせてほしい。
 - 今年度から始まったデュアルスクール制度では、大野川に4家族の制度利用があるなど、人口減を課題にする地域としては、課題解決に向けた動きができた。このことは、推進員が、学校でのサポートのほかに、滞在先の宿舎などでのサポートにもあたってもらったことの結果でもある。
また、学校内に居場所を検討してもらった。地区内のシェアハウスで試験的に放課後の子どもたちの居場所を作り、そこでのニーズを踏まえ、学校内に放課後の子どもたちの場所を作る計画をしてもらっている。また、学校内に地域の人がサポート役として出入りできるコミュニティルームの創設も検討してもらっている。

- 推進員の導入は、うまく機能していると評価できると思う。

- 学校運営協議会には、どんな人が入っている？
 - 町会長のほか、PTAなどの保護者、地域づくりで動いている方々。それぞれが役割を持って協議をしてもらっている。

- 国型での公民館長はどんなことをしているのか
→ 学校運営協議会委員の一員。学校でやったらいい事業や公民館でできることを提案している。学校と地域の連携事業を提案している。
- 国型を全校に展開するのか。
→ 地域で違いがある、全校一律でやらないほうが良いと考えている。
無理に全校に導入するより、国型のメリットを感じてもらえる学校に導入したい。
- 学校の負担軽減とはどういう点か
→ 地域との連携で教頭先生などがやっていた地域との調整や会計事務。
ほか、教育課程のなかでは、地域連携の一環で総合の時間などをコーディネートすることもでき、それができれば、さらに教職員の負担を軽減できると思う。
- これまでのことを聞いていると、めちゃくちゃいいシステム
昨今の部活の地域移行でも、移行することによってビジネスとか、市場化すると、参加できる人とできない人の格差ができてしまう。ある研究者によると、「学校外の地域参加がその後の人生に大きな役割を与える」とあるように、どの子もそういった機会が得られることはとても大切。
コミュニティスクールでも、学校と地域がこういった考え方を共有したうえで、どんな子にも、学校外での地域参加が提供できれば非常にいいし、子どもの格差を広げないツールになりうると思う。
- 国型と松本版の違いも検証し、それが共有できると、自分たちの学校や地域にとってどっちが良いのかが判断できると思う。
- 大野川以外で国型を展開するには、推進員はどのような人が担うのがもっと見えてくるといいと思う。また、国型での公民館の役割を理解していくことも必要

(2) 若者の居場所づくり

- 中央公民館フリースペースの利用者が、前年度比で4倍は、すごい。若者に、めちゃくちゃ効いている、選ばれていることがわかる。
- 中央公民館フリースペースの写真展や高校生と計画とあるが、どうい

ったことか

→ フリースペースは、若者が気軽に来れるスペースに引き続きしたい。そのためには、勉強とは違うアプローチとして、ちょっとしたイベントも試行している。

○ ひきこもりなど、必要な人たちへのアプローチという観点が大事。フリースペースで、いろんな人へのアプローチができているか

→ 青少年ホームで若者へのアプローチをしている。支援者の研修会をしている。市役所全体では、福祉部門が中心になって、青少年ホームでは正しい知識などの研修会を開催し、理解してもらっている。

外出しにくい方対象に、若者カフェを日曜日とかに開催している。

○ 若者カフェは、どのくらい来るのか、そこに相談する人はいたのか。

→ カフェの相談員がいるが、ほとんど参加がなかった。

○ ひきこもりはあくまでも状況認識。

こうしたことがしたい、ということで外に出てきたとき、いかに広げられるか。そういう状況が地域にある。公民館もそういうことを知るという意味で、改めて地域の中に目を向けていくことが大事。

学校は、あらゆる子どもが通う場だが、卒業などでそこから出た場合、セーフティーネットとして、その子と社会とのつながりも重要

(3) ICT

○ 聴覚障がい者と学ぶ成人学校で行った、博物館との共催は面白い。これまで連携してこなかった、博物館との連携で、いろんな方のニーズにこたえることができると思う。

○ 松本大学では、スマホ講座として新村地区などの高齢者対象に、15回やった。他の地区でもやっているか。

→ どちらかというところが多い。公民館主事は若い主事が多く、自分で相談に乗っている。アドバイスなどもしている。

○ 新村でのスマホ講座では、大学生を自分の孫みたいに思っている人が多い。若者と地域の人との関わりもできている。多世代をつなげるツールともなっている。

(4) ほか

- 以前の会議で、「中央公民館のフリースペースが拡充したことで、Mウイングの駐輪場が混んでしまって・・・」という意見があった。その後どうなったか。
 - 無料で使えるためか、Mウイング利用者以外も使っている。その方が使わないと、大丈夫。また、放置自転車対策も定期的にやっている。

- まちづくりの集い
 - 分科会少なくしたのは良かった。
 - ただし、会場が分散した。どんなねらいか
 - 分科会の目的にあった会場としたこと、また外に出ることでいつもの参加者と違う方が参加してくれている。

- まちづくりの集い
 - アンケートをもとに、ブラッシュアップをしてもらいたい。